

## 情報モラルおすすめ実践報告の記入項目

### ◆実践授業のタイトル(必須)

絵本から伝える情報モラル授業

絵本「青いかいじゅうと赤いかいじゅう」を使った情報モラル理解

### ◆実施した学校の校種(必須)

小学校       中学校       高等学校       その他

### ◆実施したのは

現在の勤務校     前任校     その他

### ◆実践したクラスのサイズ

少人数(10名未満)     1クラス 10~30名     1クラス 30名以上

学年全体(または数学年合同)     学校全体     その他

### ◆学年

1年     2年     3年     4年     5年     6年

学年合同     その他

### ◆教科

道徳     国語     総合     社会     技術     家庭

学活(HR)     特別活動     図工     情報     倫理

その他の教科または時間

### ◆時間数

1     2     3     4     5     教科の空き時間(15-30分ほど)

#### ◆授業のねらいと概要

子どもたちの日常生活でよくみられるのは、言葉の行き違いによるトラブルである。自分の考えを伝える、相手の考えを聞くといったことが不十分であるため、自分たちではなかなか解決できない場合が多い。顔が見えている相手とでも、誤解が生じるのである。ましてや、今回使用する絵本のように相手の姿が見えない場合は、相手の立場や気持ちを理解する、想像する能力が必要である。今後、インターネットや携帯電話を使用するであろう子どもたちに、目の前にいない相手を思いやることの大切さをこの絵本を通して感じてもらいたい。現在、携帯電話を持っている子は2名、パソコンも家庭ではほとんどやっていないのが実情である。このような状況であるので、絵本を使用し、疑似体験をすることでネットモラルを学ぶことが有効であろうと考えている。

### 情報モラル指導モデルカリキュラムとの関連

#### ■この時間での情報モラル指導のねらい

・相手の立場や気持ちを理解することの大切さに気づく。

上記に関するあなたの授業での学習目標を記述してください。

・相手とやりとりする場合のルールやマナーを知る。

#### 【4】授業の詳細

##### ◆授業の流れ

【導入】【展開】【まとめ】の3つに分けて書いてください。数時間にわたる単元の場合は、全体の時数に対して(第1時～〇〇時)というように大きく3つに分けてください。)

## 【導入】

児童の日記を紹介する。友達など身近にいる人とけんかになった話である。よく知っている人とも言葉の行き違いが起き、その時どんな気持ちだったかを思い出させたい。

## 【展開】

あらすじを読む。(絵本は見せない。)友だちがほしいと思っていたことをおさえておく。  
「青いかいじゅうチーム」と「赤いかいじゅうチーム」に分かれ、中心についたてを置き、お互いが見えないようにする。姿の見えない相手を想像(イラストを描かせる)したり、気持ちを考えたりする体験をさせるためである。はじめに、絵本の中からお互いの姿が想像できる言葉を読ませ、相手を想像してみる。目の前にいない相手を想像することの難しさを体感させたい。

次に、絵本の続きを読む。その中で出てくる言葉(ばかねえ。できもしないことをいうもんじゃないわ。おきろ、ねぼすけめ、など。)を取り出し、相手に対する気持ちを考えさせる。(ワークシートに書き、発表させる。)最初に読んだ日記に似ていること。違うのは、相手が目の前にいないことであることを話す。そして、どこで、どうすればこんなことにならずにすんだのかを考えさせたい。(ワークシートに書き、発表させる。)姿の見えない人と会話をすることの難しさを知り、相手のことを思いやることが大切であるということに気づかせたい。

絵本を最後まで読み聞かせ、お互いの誤解が解け、理解が深まったことを知らせる。

## ◆この授業での指導のポイント・留意点は何ですか。

メールやインターネットの疑似体験をさせるために、絵本と同じ設定でお互いが見えない状態をつくる。

◆子どもたちの反応はどうでしたか。

お互いが見えない状況で相手の姿を想像することは関心が高く、楽しく取り組んでいた。最後の感想では、「ぜったい友だちの悪口をいっちゃだめだっていうことに、気づいたよ。つい悪口を言っちゃうことがあるから気をつけるよ。」「顔が見えない人のことを想像するのは、むずかしかったよ。青いかいじゅうと赤いかいじゅう一人ひとりが悪口を言わなければ、なんにもならなくてよかったのに。」「先生がうったメールは明日ではなく、日にちをうてばよかった。携帯電話を使うときは、気をつけるよ。」「顔が分からなくても、二人で気づかって協力すれば、お互いなかよくなれるよ。」など、それぞれの子が感じたことが書いてあった。

◆今後の展開や課題をお書きください。

携帯電話を持っている子2名。パソコンも家庭ではほとんど使用していないのが現状である。次回の授業では、相手が見えない状況の中で、メールの疑似体験をさせたいと考えている。相手の立場や気持ちを考えながら、文章で気持ちを伝えるという経験を通して、メールの楽しさやルールなどを考えさせたい。

## 『絵本から伝える情報モラル』

発案者：永坂武城 考察

絵本を情報モラル指導に取り入れることによって短時間で深い理解をさせることができます。なぜならば、絵本には、「心を動かす」強い力と、「心に染み入る」静かな力があるからです。児童は絵本から過去の自分の体験や潜在意識とリンクをさせながら自らイメージを膨らませます。そのイメージが膨らんだ段階で問い掛けをすると発想がしやすく児童は自分で気づきを見つけることができると、2つの実践授業から確認することができました。

情報モラル授業では禁止事項などの説明だけをして終わってしまっただけでは不十分です。算数の授業で行われる練習問題にあたる「確認行為」を情報モラルでも行わなければ児童は深い理解を示すことができないようです。理解をさせる基本である「説明→考えさせる(問い掛け)→確認をする」を情報モラル指導にも確実に取り入れるべきと考えます。情報モラル指導における確認行為は授業の感想を書くことが適していると思われます。それは自分の言葉で表現をしなければならなくなる為、指導者は児童の理解度を把握することができるからです。

情報モラル指導を行う際には幾つかの要素を理解させなければなりません。法律を含む「ルールを理解させること」また即効性を必要とする「禁止事項の説明」そして「人としての本質的な心の部分」などが掲げられます。ネットトラブルが起きる原因として考えられる主な要因は別紙に示した『子どもは知らない！親が教える情報モラル13のポイント』が主なものとなると思われます。これらの子供にただ教えればよいのではなく、本当の意味で理解をさせなければなりません。即効性を期待した指導方法では応用力や判断力を育てることは効果が薄いと思われます。

薬に例えれば頓服は即効性がありますが副作用の危険性も高くなります。それに比べ漢方薬は時間が掛かりますが体質改善をし、**本質的な効果を期待**することができます。

絵本にはこの漢方薬的な要素が含まれているのではないのでしょうか。絵本は子供の心奥深くに語りかけモラルをじっくりと育てます。また、絵本は朝読などの短い時間を有効に活用して効果を上げることができます。絵本から得たモラルを学校の日常生活の中でも繰り返し問い掛けることによって児童に染みこむように伝わるものと思われます。別紙にあります『絵本リスト』に掲げた絵本には、どれも情報モラルに必要な心が描かれています。今後も情報モラルに係わる子供達の心を育てる選書作業を続けて参りたいと思います。

情報教育研究所

<http://www.kyoiku-labo.jp/>